

月刊 文化+ PLUS

神楽 じゃじゃ！ 期待大じゃ

秋の祭りの季節。中国地方では、地域に伝わる「神楽」があちこちで上演される。豪華絢爛な衣装に、わかりやすいストーリー展開。担うのは若い世代だ。最近では東京や大阪など都会での公演に打って出る団体も現れている。

「神座」が語源
神楽は神社の祭礼で奏される歌舞で、「神座」が語源とされる。天の岩戸に隠れた天照大神を外に誘い出すために天鈿女命が舞った神話が由来とも言われる。宮中で「御神楽」、民間での「里神楽」に分けられ、里神楽は全国各地に様々な系統がある。一般的に中国地方の神楽は出雲流神楽に分類される。



有福温泉 湯の町神楽殿

① 鳥根県江津市有福温泉町
毎週土曜日夜に地元団体が上演
小学生以上 500円
江津市観光協会 0855-52-0534



温泉津温泉 龍御前神社

② 鳥根県大田市温泉津町温泉津
毎週土曜日夜、境内で地元の団体が上演
高校生以上 500円
旅館ますや 0855-65-2515



神楽門前湯治村

③ 広島県安芸高田市美土里町本郷
毎週末に地元団体が上演。
温泉・宿泊施設あり
高校生以上 500~700円
小中学生 200~300円
湯治村 0826-54-0888



今月7日に大阪で上演された石見神楽「大蛇（おろち）」の一場面。火を噴く派手な演出で観客を圧倒した＝大阪市中央区、滝沢美穂子撮影

東京・大阪に進出

「+ 伝統を語る「石見」」
須佐之男命に、巨大な8頭の大蛇が目を赤く光らせ、火を噴きながら襲いかかった。最長17分にもなる胴体を勢いよく揺すったり巻いたり。笛や太鼓のテンポの速いお囃子、白い煙をたく演出も相まって、須佐之男命が剣で頭を打ち取っていくと、客席から拍手がわいた。
今月7日、大阪市のホールで上演された鳥根県西部・石見地方の伝統芸能「石見神楽」。古事記などの神

話や伝説を題材にし、「神が鬼を倒す」というストーリーが多く、初めて見る人でもわかりやすい。公演したのは、日本海に面した浜田市の9歳から60代までの男女20人でつくる「美川西神楽保存会」。石見地方には神楽の団体が約150あり、浜田市内だけでも約60ある。保存会は神社での奉納、結婚式やイベント会場での上演など地元で欠かせない存在だが、2010年5月、東京で初公演した。会場探しから営業、音響や照明まで手作りの舞台となった。事務局の市職員、下野貴志

さん(39)は「石見に来てもらうと、もに全国各地に呼んでもらうため、情報発信し、プロデュースする力をつけたかった」と振り返る。
市内2団体と実行委員会を作り、翌年9月に大阪でも初公演。1千人規模のホールが毎回ほぼ満席になり、今回3回目の大阪公演では初めて昼夜2公演を実現した。須佐之男命を演じた市職員、大上英之さん(37)は「登場した瞬間に驚いてもらえ、地元とは反応が違う。新しい役に挑戦し、もっといいものを作りたい」。来年2月に4回目の東京公演が控える。

9、10月は様々な場所で上演されている。ホームページ「神楽ポータルサイト KAGURAの社」<http://www.npo-kagura.jp/index.html>などに詳しく載っている

このほかにも